

## 6 . ダム湖調査におけるトピックス

東北地方は猛禽類の生息環境が良好！  
外来種の生息範囲が拡大！

### 東北地方は猛禽類の生息環境が良好！

(鳥類調査ダム：浅瀬石川、白川、寒河江、月山 計4ダム)

良好な動植物の関係(食物連鎖)の指標となる、動植物の上位に位置する猛禽類が、東北各ダムで確認されました。その例として猛禽類のオジロワシ・クマタカ(絶滅危惧 B 類)、オオタカ(絶滅危惧 類)、ミサゴ(準絶滅危惧)が東北で調査した4ダム中3ダム、イヌワシ(絶滅危惧 B 類)が2ダムで確認されております。全国で調査した29ダムのうち、オジロワシは6ダム、イヌワシは4ダムしか確認されておられません。

なお、日本で絶滅の恐れがある特定種の確認数は、全国で浅瀬石川ダムが1番目、白川ダムが2番目に多く確認されました。

また、白川ダムでは鳥類の繁殖確認数が最も多い結果となりました。

### 外来種の生息範囲が拡大！

(魚類調査ダム：鳴子・月山 両生類調査ダム：釜房、三春、玉川、月山  
陸上昆虫类等調査ダム：釜房、七ヶ宿、月山)

鳴子ダムでは魚類のニジマス、三春ダムではウシガエル、釜房ダムでは陸上昆虫類のブタクサハムシが初めて確認されています。

また、魚類のオオクチバス(通称：ブラックバス)は、平成15年度調査では確認されませんでした。第3巡目からは急速に生息域を拡大していることがわかります。

平成2年度からの調査結果により、国が管理する東北14ダムのうち6ダムでオオクチバスが確認されたこととなります。